

# 愛知スキー協会 第47回定期総会 議案(案)

## スキー協らしい裾野の広がり求めて!

私たち全国勤労者スキー協議会は2019年2月に50周年を迎えます。これまで組織を支えてきた先人たちの業績を引き継ぎながら、厳しい状況の中でも組織的な前進の可能性を模索しながら確実に前に向かっていきたいと思えます。

スキー協の会員が視察に参加した平昌オリンピック・パラリンピックでは日本選手の活躍には目を見張るものがあります。新しい種目が増えバラエティに富んだ大会でしたが、スノーボードハーフパイプやノルディックスキー、カーリング、スピードスケート、フィギュアスケートでの活躍が印象的でした。しかし日本のアルペンスキーへの選手エントリーが少ないのはとても残念です。パラリンピックで日本選手は、アルペンスキーやクロスカントリースキー、スノーボードで合計10個のメダル(金3、銀4、銅3)を獲得して、前回ソチ大会以上という目標を大きく上回る活躍をしました。

平和の問題では、平昌オリンピック・パラリンピック以降、朝鮮半島での非核化への動きが急速に進みはじめています。余談はできませんが日本も含めた北東アジアの平和と非核化が実現することを大いに歓迎します。また、国連で「核兵器禁止条約」が採択されました。是非、被爆国日本でも批准してほしいものです。

憲法9条改憲の動きが強まっているなか、新日本スポーツ連盟の一員としてスキー協としても「安倍9条改憲 NO! 3000万署名」運動を積極的に取り組んでいきましょう。

2013年にスポーツ基本法が制定されましたが、私たちのスポーツをする権利は一向に改善されていません。それどころか安倍内閣の「働かせ方大改悪」法案では、ますますスポーツができる条件が悪化しています。労働条件を改善してスポーツ権の拡充のためにも自治体交渉などにも取り組んでいきましょう。

来年3月に予定している50周年ウィークを会員の総力で成功させましょう。

愛知スキー協のここ数年目指してきた方向性の一つが専門性の追求です。そして、スキー協らしい楽しさおもしろさを追求して、特化しようということです。行事ごとに技術の向上のためには、組織としてどうとらえるか、技術論と組織論を常に平行して捉えるように働きかけてきました。「スキー協は、スキー協らしい人間関係にある」と思います。それが、楽しさおもしろさの原点です。それをさらに、具体的に(スキーメイト No,172 2017・11月号 参照)発展させたいと思います。

スキー協はクラブが基本です。会員が主人公であり、会員個々の要求に基づいて計画を立て、実践していきます。常に同じ事に満足せずにさらにその先に行く食欲さと追求心を持ちましょう。10年後あなたは、クラブにいますか?あなたは、クラブやスキー協は、どんな形で存在していると思いますか?今とは違っているはずですが。クラブを残せますか?私たちが自ら楽しく生きいきし続けられている環境と文化を作って行きましょう。

その為に、出来ない事、ないものを目標に据える事はやめましょう。新しい事に挑戦しないということではありません。今まで築いてきた人間関係を崩さずに、あなたらしい新たな関わり方をそれぞれができないでしょうか?



**毎年、同じ人が同じ担当をやり続けている様で、今年初めての出来事が必ず有るはずですが。そこには、新しい展開に繋がる何かがあるはずですが。よく考えて見つけ出しましょう!**

特に、若い世代をいかに取り込み、そして比率を増して行くことは絶対に必要なことです。しかし現実のなかで、多く居る経験豊かな世代が先頭に立って、さらにおもしろさを広げている背中を見せつける事が今こそ大事なことです。そして、今だからこそ、出来ること(スポーツの発展・スポーツ権の拡充等)、感じることを、大切にしたいと思えます。

課題は、これから多く出てくると思えますが、共通の課題の突破口をみんなで見つけ出したいと思えます。

## 愛知スキー協第46期活動のまとめ(総括)

方針にてらしてどうだったか

### 1 組織の活性化(今まで培ってきた、良いものを、視点を変えてよりよく発展させます)

- (1) それぞれのクラブがそれぞれにあった「クラブ力」を継続させています。機関紙の発行・例会や役員会の定期的な開催、楽しいオフ行事の実施など今まで培ってきた、良いものをよりよく発展させています。しかし視点を変えてという点では話し合いが不足していました。
- (2) 理事会で各クラブの現状を出し合い、クラブ相互の認識を深めました。
- (3) 安全なスキーのためにヘルメットの普及、SBB認定整備技術者セミナーへ参加しました。事故を理事会に報告し、担当部署と担当者を決め、記録として残せましたが、事故の原因を解明しその対策を話し合うことについては今後の課題です。
- (4) クラブとクラブ員の拡大  
オフピステに人気が高まっていますが、山スキーのクラブは全国的に少ないため、ぶなの木スキークラブに他県からの加入者を含め16名が増えました。

### 2 東海ブロックの一員として、スキーの楽しさすばらしさを広げる活動

- (1) 行事はそれぞれ工夫を凝らして楽しい取り組みとして実施しました。
- (2) 野麦峠スキー場に山葵スキークラブを立ち上げ、旗をつくりましたが、雪不足のためポール練習会を開けませんでした。
- (3) 東海ブロック拡大役員会を開催し、協力体制を作りました。

### 3 教程の普及とスキー技術の研究と実践

初滑り、レベルアップで新教呈を学習しました。

### 4 スキー協を外部に広げる活動

- (1) スノーフェスティバルにクラブ員外の親子、スキー・ボード愛好者を誘い(約30人)でフェスタを成功させました。
- (2) 平和への取り組み 平和行進にクラブ員が自主的に参加しています。



## スキーの楽しさすばらしさを広げる活動の展開(方針)

### 1 組織の活性化のために (初めての出来事を、視点を変えてよりよく発展させます)

#### ✓特に実践してほしい項目

- (1) それぞれのクラブがそれぞれにあった「クラブ力」をアップしていくためにもがいてもがきってください
  - ・このクラブでしかできない、行事・話し合い・特典・練習方法を考えます。
  - ・今ある環境が10年後も存在するクラブにします。
  - ・今ある、楽しさが今後も引き継がれるためにみんなで考えます。

- ・高齢化にふさわしい企画や制度を実現します。
- ・担当者に任せきりにしない、役割や担当を交代して民主的な運営をこころがけます。
- ・同じ企画でも視点が変われば、新しい企画になるはずです。

①それぞれの例会を定期に開催します。

②機関紙をみんなでつくります。

③オフトレをします。

**✓④各行事のどこが自分にとって、魅力があるのかはつきりさせ、人を誘います。**

⑤みんなで学習・研究をします。

- ・どうしたら、安全が得られるのか(オピニオン講習会の参加)
- ・どうしたらスキーが上手くなるのか
- ・どうしたら、スキーを長く続けられるのか

⑥いっしょにやって、意味のあること一緒にやる相手を見つめます。

- ・家庭や親族で(家族でクラブ行事に参加する)
- ・職場で・地域で
- ・いろいろな種目に挑戦し、その仲間と(今までやったことのないスポーツや遊びに挑戦)
- ・新クラブ員の拡大をして、その友達も誘って
- ・クラブ間交流行事をして
- ・他県との協同行事をして(新しいクラブ作り)
- ・全国スキー協の企画に参加して(全国大会への要員参加)
- ・スポーツ連盟行事に参加して
- ・他団体行事、企画に参加して



(2)安全なスキーのために

①ゲレンデの飲酒は、やめよう。遅くまでの深酒も慎みます。

②全ての事故を理事会に報告し易い簡単な、書式の報告書をつくります。クラブ内での担当者を決めます

③前年の事故事例で学習し、みんなの命はみんなでまもります。

④ヘルメットやプロテクターを着けて、自分の身は自分で守ります。

⑤ヘルメットやプロテクターを着ける働きかけを、更にします。

⑥滑る前の安全確認をし、危険な場合は滑らない決断をします。

⑦スキー場の安全提言をします。

⑧行動前には、ストレッチ等の準備運動を習慣づけます。

**✓⑨日常生活の中にトレーニングを取り入れます。**



(3)クラブが基本ですクラブの動き、現状を具体的につかみ合い、状況

①それぞれの、クラブにあった「クラブ力」を追求します。

②新し会員が新しい人を連れて来ます。クラブを活性化するためには、クラブ全体がそのことを認識して、定着する為の行動と対策を執らなければクラブは日常的な再生力をなくします。

**✓③各クラブの特色を創り、培われたスキーの楽しみ方および、得意な技術の継続と発展をさせます。**

④クラブの構成実態(スキーヤーとボーダーの人数把握、大人と子ども人数の把握、メイト普及と活用状況、クラブ名簿の整理等)を把握します。

⑤クラブ相互の協力と援助が大切です。クラブ懇談会を随時行います。

(4)そのための具体案です。

✓①新しいクラブを創ります。年代別のクラブの芽を立ち上げます。(8→10クラブ)

- ②役員会は、理事長、副理事長、専門部長、事務局長、事務局次長、会計で構成します。
- ③理事会に、組織担当者・安全担当者をおきます。
- ④クラブは30人以上にします。
- ⑤スキーマイトを活用しての購読者を10%増やしましょう。メイトにクラブの行事の記事を送りましょう。各クラブで担当を決め配布・集金をします。
- ⑥10/20・21の交流学習会を80名。12/8・9の初すべり&指導員要請・研修会を100名で行います。1/26・27の平湯・スノーフェスティバルを全国の参加者の裾野を広げる運営・企画・競技方法に賛同する人に働きかけて200名(愛知参加者だけで150名を目標)で成功させます。3/9・10の第2戦競技会を70名で行います。
- ⑦愛知スキー協の会員を300名にします。

## 2 東海ブロックの一員として、スキーの楽しさすばらしさを広げます

(東海ブロック行事表参照)

✓(1)ブロックの連絡を取り合い、それぞれの現状を確認しあいながら、さらに連帯を強めます。

- ①役員合宿・技術部会を技術委員会とし拡大して8月に行います
- ②拠点スキー場を決めて、新しいクラブ作りをとりくもう(野麦の山葵)
- ③東海ブロック総会を5/18・19におこないます
- (2)月に技術講座合宿を行います。(競技部ワークショップと協同)
- (3)スキーシーズンを楽しく迎える為に、10/20・21交流学習会を成功させます。
  - ①組織論を考える機会にし、クラブや専門部の核づくりの場とする
  - ②体を動かして、交流しながら、学習しながら、みんなで考える為の行事とする
  - ③日常的なスポーツに適した身体能力の向上に重点をおき、どうしたら自身の躰の特徴をつかみ、生涯スポーツをどう愉しむか、考えてもらう機会にする
  - ④指導員以外の人も楽しめる行事とする
- (4)技術部会をつくり、技術委員会のレベルアップと体制強化を図り、東海ブロック全体が楽しく上手くなる
  - ①1/5. 6のレベルアップ研修
  - ②2/23・24のブロック練習会
  - ③3/17・18のブロック練習会
  - ④3/23・24の全国デモ選
  - ⑤3/17・18のブロック後期技術委員会
- (5)安く参加できる目玉行事として、若者に呼びかけをして、12/8・9の初すべり&指導員養成・研修会を100名の目標とする
- (6)楽しさと、ここでしか味わえない付加価値を更に積み重ね、増幅させて、平湯スノーフェスティバルを200名の目標とする
- (7)初心者から上級者まで楽しめる、2回の競技大会の成功を目指す
- (8)ポール練習会を3回開く
- (9)以上の企画を各県の特徴を出しながら系統的に繋がりを持たせて、組織の拡大を目指します



### 3 スキー協らしい専門性の追求とスキー協の特色づくりをします。

#### (1) スキー協としての各種専門分野

- ① 競技
- ② 山スキー
- ③ **✓指導員技術**
- ④ スノーハイキング
- ⑤ ネイチャースキー
- ⑥ テレマークスキー
- ⑦ こどもスキー
- ⑧ 日帰りスキー
- ⑨ スノーボード
- ⑩ おもしろ競技
- ⑪ 雪遊び 雪合戦
- ⑫ スキーメイト普及
- ⑬ 基礎的なスキー技術
- ⑭ 安全対策



#### (2) クラブの特色ごとに専門性をさらに発展させます。

- ① それぞれのクラブに、あったスキーの楽しみ方および、得意な技術の継続と発展をはかります。
- ② それぞれのクラブに培われたオフトレ方法および、得意なスポーツの継続と発展をはかり、クラブの専門性を打ち出します。

### 4 新教程の普及とスキー技術の研究と実践をします。

#### (1) 指導員は、研修に参加し指導法を研究します。

(養成講座×6回、研修講座×16回、検定回×3回、STT×6回を全国へ申請します)

#### (2) 指導員の役割と必要性をはっきりさせます。(研修会の強化・研究レポートの提出)

#### (3) 初級指導員を3名、中級指導員を2名、上級指導員を1名養成します。

#### **✓(4)技術部員は、技術委員会のメンバーと機能を発揮し、スキー技術を向上させる方法をきちんと伝えます。**

#### (5) 山スキー入門コースを複数行い、山スキー人口のすそ野を広げます。

#### (6) 山スキーリーダーを3名増やします。

#### (7) 山スキー部は、ゲレンデ外を安全に滑る技術を実践し、技術向上を図り、広めます

#### (8) 競技部は、ポール練習会を3回開き、技術向上をはかります。

#### (9) 新しい競技方法を模索します。(スキーもボードも両方楽しめて安全な旗門・複合競技方法)

#### (10) セッターを増やします。

#### (11) ボード部で指導員の養成と教程書の普及を三重、静岡、全国ボード部との連携をとって行います。

### 5 スキー協を外部に広げる活動をします。

#### (1) 各クラブのメイン宿舎にメイトと新教程書とクラブの機関紙(ニュース)を置きます。

#### **✓(2)スキーの行事に誘うことが一番手っ取り早く効率的です。**

(スキー交流学習会・初すべり・スノーフェスティバル・競技会・専門部行事・クラブ行事)

#### **✓(3)フェイスブック・ホームページの更新をみんなで支えます。**

#### (4)他団体との協力共同の取り組みを創ります。